第４章　中堅・若手職員座談会

実施日　2022（令和４）年３月23日（水）

場　所　本庁７階会議室、現地機関

テーマ　企業局の未来

司会者	経営推進課	竹花　顕宏	課長
参加者	経営推進課	佐藤　健介	技師
	スマート化推進センター	丸山　陽介	主任
	中央制御所	片岡　里仁	技師
	水道事業課	三石　健太	主任
	南信発電管理事務所	岩井　隆依	技師
		伊達　　葵	主事
	北信発電管理事務所	柿本　　陸	技師
	上田水道管理事務所	橋部　太一	課長補佐兼施設係長
		櫻山　茂昇	主任
	川中島水道管理事務所	山口　裕暉	技師
	松塩水道用水管理事務所	青木　　猛	担当係長
補助者	経営推進課	青木　千明	テクニカルディレクター
		稲玉　　稔	企画幹兼企画開発係長
		矢澤　将良	広報活動アドバイザー（記録）

※所属・職名は当時のものです。

本庁７階会議室

リモートの様子

（竹花）

60 周年記念誌座談会の司会を務めさせて頂きます。今日は肩の力を抜いて発言して頂ければと思います。堅苦しいものにはしたくありません。自分らしさ自分の言葉で話して頂ければ自然に皆さんの良さが滲み出てくると思います。笑いも交えた楽しい座談会にしたいと思っていますので宜しくお願いします。

○企業局 60 周年の感想

では、まず 60 周年に立ち会った者として、皆さんの率直な感想をお聞きしたいと思います。ご案内の通り企業局は、1961（昭和 36）年４月に発足しました。そして、2021 年が、ちょうど 60 周年に当たりました。今日は 11 人の方に参加して頂いている訳ですが、自分の携わっている仕事を紹介してもらいながら、60 周年の感想を頂ければと思います。

（佐藤）

今年度まさに 60 周年記念事業をやらせて頂きました。とくに情報推進化を皆さんにご迷惑をかけながら進めさせて頂きました。

記念事業についてはやるだけで手一杯で、お祝いをしている感じはありませんでした。しかし、広報面では攻めた年だったと思います。例えばテレビをやったりとか新聞広告を出したりとか、今までやってこなかった面でかなりチャレンジングな年だったと思います。

（三石）

水道事業課は南信発電管理事務所に続いて企業局２回目の職場となります。昨日の新聞広告に高遠発電所の写真が大きく掲載されていましたが、かつて担当していた者としては、すごく思い出に残るものでした。

水道事業で言いますと設備更新や維持管理が重要になってきています。長くやってきた事業だけに我々の課題となっています。

（丸山）

業務としては水道事業の広域連携、危機管理対応を担わせて頂きました。企業局は３年目で俯瞰的、総務的に関わらせて頂いています。

水道事業広域化の業務をやるなかで、「人口減少」が問題の根本にあるのかなと感じています。60 年という長い歴史のなかで、企業局は人口増等に伴って様々な事業を行ってきましたが、今は２事業に落ち着いており、時代の流れを感じています。これからの方向性を決めなければならない岐路に来ていると感じています。

（片岡）

私のメイン業務は発電所の運転計画の作成・調整です。また北発管内と南発管内の発電所システムの統一に向け、「次世代監視制御ネットワークシステム」の構築に携わっています。

発電所の建設がすごい勢いで進んでおり、入る前に想像していた公務員像と良い意味で異なり、面白みのある職場だと感じています。

（岩井）

与田切発電所の大規模改修などに携わらせて頂いています。私は 2017 年度採用ですが、「2050 ゼロカーボン」に向けての発電所の建設や大規模改修など貴重な経験をさせて頂いていると感じています。

将来に向けて、地域連携型水力発電所など長く愛される発電所を建設していきたいと思っています。

（伊達）

小規模工事の事務や用地関係、財産管理事務を担当しています。持続可能な社会とか脱炭素社会が叫ばれるなかで、再生可能エネルギーを使った発電所

の建設に携わることができて貴重な経験となっています。

また、60周年の関係では動画や写真に出させて頂き、普通では体験できないことを経験させて頂いています。

（柿本）

裾花発電所と湯の瀬ダムの維持管理に携わっています。裾花発電所の大規模改修工事をメインで担当させて頂きました。出力アップのテーマを成し遂げることができ、達成感を感じました。また、メディア出演もあり勉強になりました。

（山口）

私は電気職で、浄水場・ポンプ場配水池などの更新・維持修繕を担当しています。採用されて８年ですが、すべて企業局で勤務しており激動の８年だったと思います。

（青木）

浄水場の電気・機械設備を担当しています。設備が古くなっており、更新工事が続いています。

これまでの人が築いてきたものをしっかりと維持していかなければならないと思いますし、より良いものにして次の世代に引き継がねばならないと思っています。

（櫻山）

水道事業は老朽化で漏水とか水質事故が日常化しており、人手も時間も足りない状態ですが何とかやっています。しかし、このままではまずいと感じ

ています。

（橋部）

現在、水道事業での３か所目の職場で企業局60周年を迎えることになりました。一応土木職なのですが水道事業との係わりが長くなっていることもありまして、技術的な面も含めて様々な業務に関わらせていただいています。今日は若い職員の皆さんの座談会の中に自分がいることにちょっとした違和感をもっているところです。

○災害への対応

（竹花）

２番目の質問は災害などへの対応についてです。令和元年東日本台風災害や、今も続く新型コロナウイルスの蔓延がありました。皆さんの経験を率直に語ってください。

（櫻山）

東日本台風の時は夜の11時頃に呼び出されて、坂城町の村上小学校に給水に行きました。その後、断水の連絡が入り給水を続けました。イメージとしては丸二日間くらい動き続けた感じです。

（橋部）

東日本台風の際は雨が強くなる前の明るいうちに浄水場に入りました。土木職の性でしょうかね。その後夜にかけて風雨が強くなり停電で断水が発生しました。応援の職員を呼びましたが通行止めなどでなかなか職員が集まらず、一人で避難所への応急給水に向かいました。翌日には千曲川の堤防決壊の恐れがあるということで避難勧告が出されましたが、浄水場を離れるつもりもなく、土嚢を作って正門や電気機械室などの入口に並べ有事に備えていました。

（山口）

東日本台風のときは長野市でも河川の越水があり、川中島水道では浸水対策を重点的に行うようになりました。水源になっている井戸の管理や非常用

発電など電源の確保を進めました。

（青木）

松塩の場合は川から取水しているのですが、取水口にたくさんの土砂が入り込み、除去作業に大変苦労しました。松塩のスタッフは平均年齢も高く、人数も少ないということで老体に鞭打って対応したという感じです。今後は地球温暖化で災害の激甚化が見込まれるので、施設の機能強化を考えていかねばならないと思っています。

（岩井）

昨年の豪雨では大鹿発電所、与田切発電所が大きな被害を受けました。とくに大鹿発電所では取水口に行くための道路が崩落しました。また、土砂が川に溜まって河床が上昇し、放水口から水が発電所内に入ってきてしまいました。大鹿発電所は10,000kWhという大きな発電所なので復旧に力を入れました。

（柿本）

東日本台風では千曲川の氾濫を目の当たりにしました。北発では2019年にドローンを導入しているのですが、菅平ダム等の巡視を行いました。最近は防災訓練でドローンの使い方を共有して、誰もが使えるようにしています。

また、今年は水中ドローンも導入しました。こうした最先端の機器を使って巡視ができるようになればと思っています。

（竹花）

新型コロナウイルスへの対応ですが、スマート化推進センターの丸山さん、いかがだったでしょう。

（丸山）

企業局の場合は「働き方改革」ということで、先見の明があったと思うのですが、モバイルパソコンやスマートフォンが導入されていて、新型コロナウイルスにも対応できました。一方で、ツールがあるだけではどうしようもないということも感じました。

新型コロナウイルスの出現でWeb会議が当たりまえになり、今後の働き方を考えるうえで大きな転機になったと捉えています。

○企業局の現状と課題

（竹花）

企業局の現状と課題についてお聞きしたいと思います。これについては皆さん全員にお聞きしたいと思います。

（佐藤）

私は電気メインですが、企業局は経験値のある人がいるので何とか持っているという感じがします。中間層がおらず今後が心配です。いわば「できる人」が組織を引っ張っているという感じがします。経験の引継ぎを上手くしなければならないと思っています。

（三石）

電気と水道両方を経験してみてなんですが、課題というとライフライン事業者としての危機意識をもっと養っていった方がよいと思っています。

新型コロナウイルス対策でも災害対策でも同じですが、企業局という「組織」として対応できるようになれば、より良いのかなと思っています。

人材面でいうと水道は本体が知事部局にあり、企業局に来るのは稀で人材を育てていくのは大変かなと感じています。

働き方の面でいうと、組織で働くということが大事になってくると思いますが、スマート化推進セン

ターは組織的に働いている感があり羨ましく感じました。

（丸山）

スマート化推進センターはメールで情報共有しながらやっています。私も在宅勤務をすることがありますが、皆さんにフォローしてもらいながらやっています。

企業局の課題ということになると、私も人の部分が大きいと思います。ノウハウの蓄積という点で、電気・水道ともに大変になってくると思います。

私がメインでやっている水道でいうと、「広域化」を柱として進めていますが、人材についてはお金で解決できない部分もあると思うので、「広域化」は検討するに値すると考えています。

電気の方は人が少なくなるというなかで、事業をどんどんやっている。しかし、できた部分については当然ですが管理していかなければならないので、やはり人の部分は課題だと思います。

（片岡）

人員不足という面はありますが、次世代の管理システムやAIを活用した運転計画支援システムの開発を進めています。

将来的には電気・水道の一元管理も想定されており、垣根を越えて企業局チームとして動けるのではないかと期待しています。

（岩井）

発電所の建設には長い年月がかかりますが、数年で担当が変わるということで、切り替え期などに課題があると感じています。

企業局は広報に力を入れていますが、現場では「広報に力を入れてどうするんだ」という意見もあり、意思統一の必要を感じています。

（伊達）

自分の分担以外わからないということがあり、情報を共有して組織として動かなければと感じています。

発電所の建設が進むなかで、イベントとか広報の活動も増えてきており、人が足りていないということは感じます。

（柿本）

点検や巡視を外部の業者に委託して建設に専念しようという考えがあり、点検とか巡視の業務が減ってきています。現場を踏まえたうえで建設という考えもあると思います。

（櫻山）

水道は更新の経過を知っている人たちがいなくなってきており、手探りで臨んでいるところもかなりあります。私たちも当然のことながら異動しますので、状況として技術を引き継いでいくのはかなり難しいと思います。私もこの度異動するのですが、私が経験してきたことを、どう引き継げばよいかというのが今一番の課題です。

（橋部）

やはり「人」の問題が深刻だと思います。特に現地ではベテラン職員の知識や経験に頼って業務を運営してきた傾向が強く、人事異動がある中で計画的な人材育成、技術継承ができてきませんでした。あと数年でそのベテラン職員も完全にいなくなります。水道施設は地下や山の中など普段は見えないようなところが多く、いよいよ施設の場所も状態もわからない職員で運営していく状態となるのが現実味を帯びてきました。

気が付けば、自分も次の世代にどれだけ知識や経験を伝えられるかという立場になってしまいました。先輩たちから教えてもらったことをできるだけ多く残していきたいと思いますが難しい課題です。

（山口）

設備も人も「老朽化」してきたというのが課題になるかと思います。環境価値が高まっている売電などを通じて財源を確保しながら更新を進めるというのは非常に良い動きだと思います。唯、これを安定的に進めるためには、若い人たちへの引継ぎが課題になります。

水道事業でいえば人口減少ということがあり、収

入も減ることになります。そのなかで広域化も検討されていると思いますが、新しい技術も取り入れながら人口減少に対抗していかなければならないと感じています。また、水道の安定運営のためには技術を継承していく人が必要なのかなと思います。

（青木）

水道の方では職員の技術をどう維持していくかというのが大きな課題だと思います。また、外部委託が進んでおり、職員も限られるというなかで、水道に軸足を置いた職員をつくっていくことも必要ではないかと思います。

○企業局の未来

（竹花）

人員の不足や技術の継承に皆さん課題があるとお考えのようです。また、働き方の面では組織内で情報共有をもっとしていった方が良いとの意見が出ました。

現状と課題を受けて、次に企業局の未来について語ってもらおうと思います。こんな企業局になったらという夢を語ってもらえればと考えています。電気・水道に留まらず、こんな事業をやってみたらということがありましたら出して欲しいと思います。

（佐藤）

新しいものをドンドン取り入れて、やっていて楽しくなるような発想を生み出しながら、仕事ができる職場というのが一番良いと思います。理想を語れる人がいっぱいいる柔軟な組織が良いなと思っています。

（三石）

電気と水道両方の知識を持っている方もいらっしゃるので、電気と水道を分けないような組織になれば良いのかなと考えています。

人材がいないというなかで、地域密着の民間企業と一緒に成長できればと思います。

（丸山）

企業局がやっているもので、「これは企業局がやらなければならないものなのか」という仕事があります。たとえば水道の広域化で言えば、別の事業主体で進めた方が良いということも考えられますし、電気であれば民間の方が良いということもあると思います。

ただ、そのなかで「企業局がやるから」という部分があっても良いと思います。民間と行政の間を上手く埋めるような仕事ができればと思います。言ってみればかゆいところに手が届くような組織になれば良いなと考えています。

（片岡）

水素エネルギー推進ということでバスケットボールチーム「信州ブレイブウォリアーズ」と提携して広報などを展開していますが、もう一歩進めて企業局でプロチームを作っても良いのかなと思っています。

水道施設とか発電所の施設にはかなりのスペースがあるので、そこを有効活用したり、発電所の電気を使って練習も行うなど、プロチームを絡めた企業局の発信ができれば面白いのかなと考えています。

（岩井）

施設の維持管理にはAIなどを活用したいです。たとえば故障の予測ができる機器があればと思います。また、施設の地元の皆さんに密着した企業局になれば良いなと思っています。

（伊達）

企業局は民間とも行政とも違って、その間の役割

を果たせる組織だと思うので、行政と民間の手の届かないところを埋める組織になれば良いなと思います。また、効率よくスマートに働けたら良いなと思っています。

（柿本）

プロスポーツと絡めたプロジェクトをやってみたいと思っています。水素ステーションですがバスケットボールチームの信州ブレイブウォリアーズと組んでやってみたのですが、面白いと思いました。

また、プロチーム専用の発電所、たとえば「松本山雅発電所」とかを建設するのもインパクトがあって良いのかなと思います。

水力もありますが、ほかの最先端の技術を使って発電ができれば良いのかなとも思っています。

（櫻山）

日本では蛇口をひねれば水が出るのが当たり前の状況ですが、その継続が一番大事なことだと考えています。

（橋部）

電気も水道も「水」という公共の財産を使って公共のための仕事をしています。

この「水」という公共財を有効に使うためにも電気、上下水、農業、環境保護、防災などの様々な分野を有機的につなげられるようなことができればと思います。

（山口）

ガソリン価格の高騰でもわかるように、日本は外国にエネルギーを依存している訳ですが、少子化が続けばエネルギーの必要量は減るかもしれません。相対的に企業局の水力発電の価値は上がると思います。

企業局の存在価値として、「県内のエネルギー自給率を上げる」「自分たちの地域にある資源だけでエネルギーを賄う」というのが理想的だと考えます。

（青木）

水道は今後、広域化が進むと思われます。その際、企業局は関係する自治体から頼りにされる存在になれればと思います。

また、職員のワーク＆ライフが、バランスの良いものになればと考えています。

○企業局の役割

（竹花）

最後にこれからの企業局が、果たすべき役割について伺いたいと思います。

（片岡）

発電所では地震で電気が止まった時に自家発電して住民の皆さんの携帯の充電ができるようにしているのですが、広報できていない気がします。

発電所ができることによって、どういうメリットがあるかということを住民に理解して頂き、いずれは住民の皆さんから建設の要望が来るようになればと思います。

（岩井）

地域の皆さんに水力発電の良いところをアピールしていきたいと思います。また、発電所の仕組みなどを学べる施設もあればと考えます。

ひいては地域の皆さんに水力発電に関心を持ってもらい、水力発電を広げられるようにしていきたいと思います。

（伊達）

新しく発電所をつくるにしても地域の人たちの理解がなければ出来ないと思います。そして、電気について地域の皆さんが安心して企業局に委ねてくれるようになればと思います。

（柿本）

水力発電への期待は感じています。「地域に愛される企業局」をモットーに進めれば良いと思います。

（櫻山）

企業局はまさにダイレクトに県民の暮らしと命を支えるところで、少ない職員ですが、確実に水と電気を届けるという使命を果たしていかなければならないと思っています。

（橋部）

官ではできないこと、やりにくいことができるのが企業局の強みでもあると思います。

現在の事業にこだわらず、その時々に要請される事業に取組、役目が終わったら止める。スクラップアンドビルドで地域の課題やニーズをとらえた事業ができれば期待される組織になるのではないかと思います。特に小規模な市町村を支援できるような事業ができればいいですね。

（山口）

企業局はライフラインを担っているということで、供給原価を抑えて、県民の皆さんにできるだけ安く水と電気を届けなければならないと思っています。

（青木）

電気も水道もライフラインを支える重要な仕事です。企業局は公営企業ですから、公営企業らしく地に足を着けて確実に事業を進めていくことが大切だと思っています。そうした姿勢を見せることで、住民の方や周りの自治体の方に安心してもらえるのではないでしょうか。

（佐藤）

皆さんに信頼してもらえる、また信頼に応えられる組織であり続けることが、企業局の果たすべき役割だと思います。但し、信頼してもらうためには企業局を知ってもらうということも大事だと思っています。

（三石）

長野県密着型の組織になればと思っています。また、民間と行政の間の存在ということで、民間が手を出しにくいような新たな分野に挑戦していくという役割を担っても良いのかなと思います。

（丸山）

本来、電気は民間、水道は市町村が担うべきではないかという考えを個人的には持っています。

ただ、実際にはなっていないということを考えると何か理由があるのだと思います。企業局とすれば事業を本来のところに戻していくことが求められていると考えます。

たとえば水道事業の広域化については、向かっていくべき目標だと思います。住民の皆さんの感情も絡んでくると思いますが、我々としては効率の追求はすべきだと感じます。

水道の広域化は上田、長野で進んでいますが、これが形になればと思います。

（佐藤）

今日のように若手や中堅が意見を出せる場、自発的に意見を言える空気がすごく良いと思います。意見を出しやすい環境を作れば働き方の改革など良い方向につながるのではないでしょうか。

（櫻山）

電気にしても水道にしても施設管理をしていかなければならないわけですが、面倒をみる人は異動でころころ変わってしまう。企業局はそういう悩みを持っている訳ですが、今の IT の技術や外部委託によって、効率よく施設を維持していくのか課題だと思います。

（竹花）

ベテラン・中堅・若手がいてはじめて企業局の事業が成り立っていくのではないかと思います。皆さんには知識や経験をどん欲に身に着けて欲しいと思います。

明日の企業局を担う皆さんの活躍を期待しています。皆さん、今日はありがとうございました。

第５章　60 周年記念事業

佐藤　健介
矢澤　将良

○概要

企業局は 1961（昭和 36）年４月に誕生し、2021 年に 60 周年を迎えました。この間、企業局は幾多の変遷を経て、2008 年度からは電気事業と水道事業に集約され、現在に至っています。

しかし、企業局 50 周年を迎える年となった 2011 年３月 11 日に発生した東日本大震災は未曽有の被害をもたらし、ライフラインの在り方を問い直すものとなりました。

以来この 10 年間は、電気事業と水道事業を手掛ける企業局に大きな転換を求めることになりました。防災とともに、人口減少、気候変動、脱炭素化といった諸課題への対応です。

さらに、2020 年に始まった新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、事業の継続方法を鋭く突くことになり、テレワークの導入により働き方までも変えることになりました。

この間の変化は企業局発足後の 50 年間に勝るとも劣らないものであり、記念事業を実施するとともに、記録に残すことが期待されました。

1．PR 動画制作

多くの職員が出演し、企業局の取組をわかりやすく PR するための電気事業・水道事業それぞれ５分程度のプロモーション映像と WEB 広告用の 30 秒・15 秒の映像を制作しました。

イベント及びホームページ・YouTube で活用しています。

2．VR 動画制作

発電所や浄水場の見学を誰でもどこでも行うことができるように、360°見回すことができる VR（仮想）動画を制作し、動画で施設見学ができるようにしました。

イベント及びホームページ・YouTube で活用しています。

VR 動画（春近発電所）

3．テレビ番組の放送

長野県出身のタレント・もう中学生さんと長野県立大の学生２人を迎え、青木テクニカルディレクターがナビゲーター役で出演したテレビ番組を制

テレビ番組の撮影の様子

作・放送しました。
　ダイジェスト版が YouTube にて公開されています。

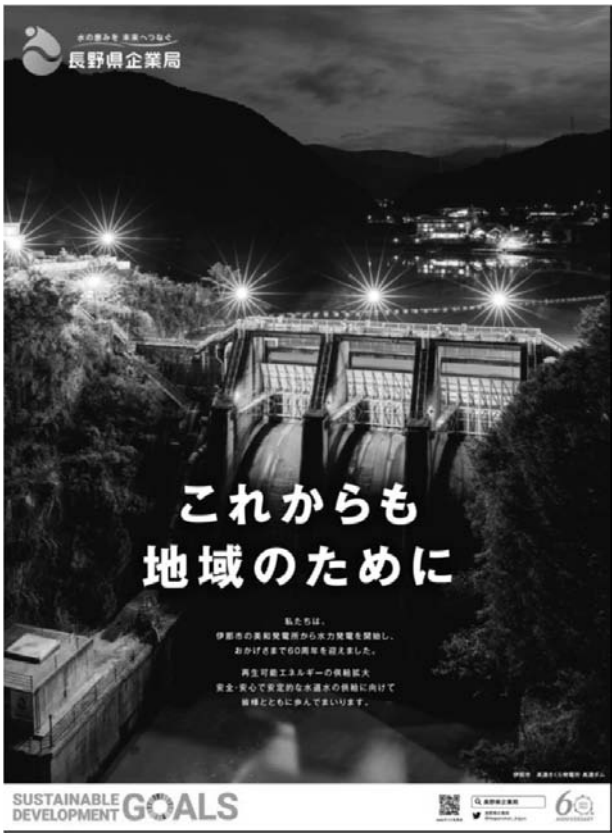
4. ホームページの制作

　企業局の取組をよりわかりやすく紹介するための Web サイトを制作し、公開しました。
　高遠ダム等のライブカメラ映像・水位等の情報も公開しています。

職員のインタビューページ

5. 新聞広告

1） 信濃毎日新聞（2022 年 3 月 22 日・朝刊）に全面広告を掲載しました。
2） 長野日報（2022 年 3 月 23 日・上伊那版）に全面広告を掲載しました。



新聞広告（信毎広告賞受賞）

（参考）信濃毎日新聞　発行部数／439，733 部（2020 年 10 月）
　　長野日報上伊那版　発行部数／19，063 部（2014 年 10 月）

6. Web 広告

　多くの方に企業局を知ってもらうため、制作した PR 動画やリクルートなどの情報を SNS 等に広告掲載しました。（2022 年 3 月 8 日から 3 月 31 日まで実施）
1） 10 代・20 代をターゲットとし、Twitter・Instagram に広告を掲載しました。
2） 長野県内全年齢をターゲットとし、YouTube に広告を掲載しました。

7．デジタルサイネージ用コンテンツの制作

　イベント・施設見学会等において、企業局の経営理念や取組等を統一的に情報発信できるよう、見た人にわかりやすく企業局の事業内容等を説明する一般向け・子ども向けのデジタルサイネージ用コンテンツを制作しました。

8. 企業局 PR キャラクターの制作

　企業局のさらなる認知度向上と、特に若者世代への効果的な情報発信を目的に、県内の学生等を対象に PR キャラクターのデザイン及び名称を募集・選定した「水望（みずもち）メグ」が、2022 年 4 月 1 日に企業局 PR キャラクターに就任しました。

1）キャラクターデザインおよび名称

水望（みずもち）メグ
Mizumochi Megu

デザインのコンセプト
◇明るく人々に希望を振りまき、笑顔で電気や水を届けてくれる人をイメージ
◇企業局の事業である「電気事業」と「水道事業」が一目で分かるよう、服装や髪形、飾りに電気や水を取り入れ、企業局ロゴカラー３色を配色したデザイン
名称
水の恵みで「未来を望む」思いを込めて命名

2）募集経過
①応募期間
2021 年 9 月 15 日～11 月 5 日
②テーマ
企業局が行う事業や発信する情報に興味を引くようなキャラクターであること
企業局のキャッチフレーズ「水の恵みを未来へつなぐ」がイメージできるデザインおよび名称とすること
③応募総数
55 作品結果

3）活動内容
①ノベルティグッズ等、企業局広報物に使用
②後述の松本山雅や信州ブレイブウォリアーズのホームゲームにて、来場者特典として各チームキャラクターとコラボしたデザインのクリアファイルを配布
③ YouTube・TikTok にて企業局の仕事などを紹介する動画の投稿をスタート

9. イベントの開催・協賛

企業局の取組や魅力を広く発信するため、各種イベントや大会等に協賛し PR しました。

1）「長野県企業局 presents　全国都道府県対抗 e スポーツ選手権 2021MIEeFootball ウイニングイレブン部門長野県代表決定戦」
（2021 年 6 月 27 日開催）
①本大会は、「三重とこわか国体・三重とこわか大会文化プログラム」の長野県代表を決めるイベントで、リクルート層をターゲットに先進的なイベントに取り組む姿勢をアピールし、注目を集めました。
② PR 効果等
ａ）YouTube ライブ配信
視聴者数／最大同時接続　81 人
視聴回数／2,082 回（2022 年 3 月現在）
ｂ）テレビ CM　15 秒 CM30 本放送（長野放送）
ｃ）テレビ放送等
・「週刊ながのスポーツ！」（長野放送）で大会告知 2 回
大会終了後、同番組で大会の模様を放送
・「Live News イット！」（フジ系列）で大会の模様を放送　　など

2）「CO_2 フリーe スポーツシンポジウム」（2021 年 11 月 20 日、開催）
①信州 Green でんきと水素を活用し、CO_2 を排出しないシンポジウムの開催に協力しました。
② PR 効果等
「燃料電池自動車（FCV）普及啓発活動に関する協定」を締結しているユーグループ、オリオン機械（株）に協力をいただき、FCV4 台を展示し、FCV から取り出した電気を使って e スポーツを体験するブースを設置しました。

3）「信州未来アプリコンテスト0（ZERO）supported by 長野県企業局」
（2021年12月11日開催）

①多様な産業分野で活躍できる高度なICT人材を育成するためのコンテスト開催に協賛（主催／長野県）し、次代を担う人材育成を支援する地域貢献とともに、理系学生の企業局に対する認知度向上を図りました。

②PR効果等

ａ）YouTubeライブ配信　513回再生

ｂ）募集チラシ等に企業局のロゴを掲載

ｃ）アプリコンテスト成果報告を動画で制作

4）プロスポーツ冠試合等

①「CO_2フリーマッチ（松本山雅ホームゲーム）」
（2022年9月3日開催）

2050ゼロカーボンを目指す企業局の取組を発信することを目的に、Jリーグ・松本山雅FCのホームゲームで、信州Greenでんきを活用したCO_2フリーマッチを開催しました。

選手が登場したスペシャルムービー「2050ゼロカーボンへの挑戦」の大型ビジョンでの放映や、ハーフタイムでの横断幕を掲出しながらのピッチ一周PRなどスタジアム内イベントに加え、スタジアム外においてもFCVの展示や、水車や給水車の展示など職員が一丸となり、企業局の取組をPRしました。

CO_2フリーマッチ

②「水素×スポーツ2022（信州ブレイブウォリアーズホームゲーム）」
（2022年12月25日開催）

企業局と㈱信州スポーツスピリットとの「燃料電池自動車（FCV）普及啓発活動に関する協定」に基づく取組として、信州ブレイブウォリアーズのホームゲームに合わせて開催された水素エネルギーの普及啓発イベントにおいて、eスポーツ体験ブースへの電源供給やVRによる企業局施設体験ブースを出展し、企業局の取組をPRしました。

5）企業局60周年記念ダムライトアップ

①高遠ダムライトアップ（第1弾）

ａ）企業局ロゴカラー（オレンジ・緑・青）

ｂ）期 間 ／2021年10月30日 ～11月7日
（高遠もみじ祭りに合わせて開催）

②高遠ダムライトアップ（第2弾）

ａ）クリスマスカラー（緑・赤・緑）

ｂ）期間／2021年12月24日～12月27日

10. 60周年記念誌の発行

60周年記念誌の編纂は、東日本大震災以降の10年間の振り返りを中心に、企業局の未来を見据えて着手されました。また、「みんなで作る60周年記念誌」のコンセプトを掲げ、企画段階から多くの職員が携わり、約2年間の準備を経て発刊の運びとなりました。

いくつかの特徴を挙げることができますが、手にした職員にとって使いやすいものが目指されました。そのため記念誌の構成は幾度となく見直されました。

識者による寄稿をはじめ、職員の経験談がふんだんに盛り込まれました。なかでも若手・中堅職員による座談会はリモートで行われ、10年後の企業局に向け忌憚のない意見が出されました。

記念誌は図書館等への配布だけではなく、企業局ホームページ上でも公開されることになっており、多くの県民ひいては国民の目に触れることになります。60周年記念誌が公営企業に対する関心を高めることに繋がればとの期待が高まっています。